



『ゴッド・ファーザーPART II』の舞台となったマッソ七劇場 (写真提供: 佐伯泰英事務所)

シチリア島のドツグウオツチング

佐伯通信

2018年1月(平成30)
第41号
 発行
 佐伯泰英事務所
 担当/双葉社
 禁・無断転載

謹賀新年。

成年の幕明け、どなた様もこの一年息災にお過ごし下さいませ。時代小説に転じて執筆から二十年目、刊行から十九年目に入ります。だからというわけではありませんが、畏友フランメンコ舞踊家小島章司との長年の「約束」を果たすべくパリで

の公演を昨年十一月に観に
 いてきました。
 この舞台鑑賞のあと、イ
 タリア南部を旅してきました。
 がこれまで訪ねたローマ以
 北のイタリアとは違い、人々
 は親切でなにより一つ不愉快な
 目に合うことなく楽しくも
 旅を終えました。シチリア
 では島特有の長閑な時が流
 れ、ユーモアに満ちた寡黙
 な島人ばかりでした。
 私たちの旅は名所旧跡を

佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

4月
14日

『ハルキ文庫』
鎌倉河岸捕物控
 『流れの勘蔵』
 32

3月
12日

『光文社文庫』
吉原裏同心抄
 『秋霖やまず』
 (初版の初回出荷分のみ挟み込み)

2月
9日

『文春文庫』
新・酔いどれ小籐次
 『げんげ』
 『酔いどれ小籐次(決定版)』
 1月4日
 ⑱「政宗遺訓」
 3月9日
 ⑲「状箱騒動」
 10

※発売日は予定です。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。

<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2018年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたします。
 (株)双葉社、(株)光文社、(株)新潮社、(株)文藝春秋、(株)角川春樹事務所

2018年1月

佐伯通信

【PR】

武者修行の 舞台を巡る旅



株式会社文芸出版部
空也十番勝負担当
森 広太

明けましておめでとうございます。『空也十番勝負 青春篇』、いよいよ三番勝負に突入しました。毎回、空也がどこに行くのか、とても楽しみですよね。私がこれまでもっとも心惹かれたのは、「声なき蟬」(上)の舞台となった秘境・狗留孫峡谷。精霊が棲むという神秘的な山に登りたいと、私は心を躍らせていたわけです。

そして昨春、週末を利用して現地に行ってきました。出発を翌日に控えた四月某日。同行する妻と一緒に旅程を確認していると、「熊本空港から行くんだね」と思わぬひと言。あれ!? 鹿児島空港着で航空券を買ったはずなのに、空港から車で一時間ほどなのに……。予約サイトには五十音順に「鹿児島」と「熊本」が並び、どうやら間違えてクリックしていたようです。思い起こせば、航空券を予約したのは熊本が舞台の「恨み残さじ」の原稿を読んでいた頃のこと。熊本のことばかり考えていたために、凡ミスしてしまったようです。

とはいえ、狗留孫峡谷は熊本空港からも車で二時間ほど。遠回りにはしましたが無事に辿り着き、狗留孫神社まで軽く山登り。人吉の青井阿蘇神社にも寄れたので、よき旅となったのであります。

▶ 神々しい狗留孫神社



2018年1月

佐伯通信

【熱海だより】

訪ねるよりも町をそぞろ歩き、ティレニア海、地中海、イオニア海の潮風に吹かれ、エトナ山の頂きの雪を見て、「シチリア」を少しだけ肌で感じる。そして、町に戻り、カフェでヒューマン&ドッグウォッチングをしながら土地のワインを楽しむ、いつもの旅のやり方でした。ナポリではマラドーナの「勇姿」を映した写真をどれほど目にしたことか。未だマラドーナはナポリにとって「神」なんですね。

オレンジ、レモン、葡萄、そして、食用の実をつけたサボテンにあちらこちらで出会って豊かさを実感し、実際にレストランやカフェで賞味しました。私が今回の旅で楽しみにしていたのはレモンから造る酒、リモンチェッロでした。優しいレモン色に惑わされて飲むと、まるでマフィア(いちどもそちらの方々にはお会いしませんでした)のようにあとからくる手ごわい酒でした。

「佐伯通信」第42号は、3月12日刊行予定の『吉原裏同心抄 秋霖やまず』(光文社文庫)に入ります。

島抜けの女

鎌倉河岸捕物控
三十一の巻

出版社からのお知らせ

応募締め切り

2018年
1月15日(月)
消印有効

大好評発売中

(ハルキ時代小説文庫)

文庫時代

「鎌倉河岸捕物控」特製「絵葉書5枚セット」を「島抜けの女」をお買い上げの上、ご応募頂いた方から抽選で100名さまにプレゼントいたします。

角川春樹事務所